

第3回 南砺市総合戦略審議会

- ・開催日時：平成27年7月16日
15時30分～17時30分
- ・開催場所：南砺市役所福野庁舎2階講堂

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

(事務局説明)

- ・《資料1》南砺市人口ビジョン（人口の将来展望）について
- ・《資料2》南砺市人口ビジョン（素案）について
- ・《資料3》総合戦略の全体像について
- ・《資料4》南砺市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について
- ・《資料5》南砺市まち・ひと・しごと創生総合戦略で取り組む事業について
- ・《資料6》市民アンケートの概要について
- ・《資料7》（第2回審議会後に寄せられた）審議会委員会からのご意見への対応

4. 意見交換

(1) 人口ビジョンについて

(中野委員)

将来の総人口について、前回に比較して、今回変えた理由についても一度説明してほしい。

(事務局)

出生率は前回と同じで2040年までに2.07まで段階的に向上させることは変えていません。変えたのは社会移動です。前は人口流出超過が2010年までに段階的に半減し、2020年以降は半減、2040年以降は社会移動を0にすると推計していた。今回は、2020年までは社人研の設定と同じで推移し、2020年以降は若年層を中心に、転出を抑制し、転入を増やすかたちを設定している。前はこの社会移動が2040年以降急激に上昇するなど不連続に推移する形で設定していたのですが、これを連続的な形で上昇するように修正したものです。まず2020年の部分について、現在クリエイタープラザ、クリエイティブビレッジ構想を実際に取り組んでおり、5年間で100人程度の転入を見込んでいる。また新卒者の地元就職や若い世代の移住を推進していくことで転入者をもっと増やしていきたい。2020年以降は、青年層、成年層、家族連れや、中高年のU、Iターンなど、それまで以上に転入を増やす政策をとり、また転出者を抑制していく。また高校卒業後の就業する方の、地元企業への就職を推進する。また、結婚や出産を機に市外へ転出される方がいることについて、南砺市の住み良さをアピールして転出を食い止める。以上の点で、社会増減の推計をやりなおし、30,431人が算出された。



(高山委員)

将来の目標出生率を国の水準に合わせて 2.07 にしたのは良い。実現は南砺市にとって決して楽ではないが、今後の人口増施策に期待する。その上さらに人口減少に歯止めをかける方策として、健康寿命と平均寿命を伸ばすことが有効であると考えられるので、施策への反映を検討してほしい。健康で長生きできるということで、南砺市の魅力を高めてもらえるのではないかと。

人口減少の要素の一つである、若い女性が転出し、後に戻って来ないのが社会減の大きな要因にもなっているのだから、戻ってくるような施策（石川県に事例がある）を検討してほしい。結婚、妊娠、出産、子育ての政策は、どこの都市も力を入れると思うので、さらに南砺市なりの魅力ある政策にすることを望む。

(事務局)

「平均寿命を伸ばす」ことと関連すると思われるが、「健康寿命を伸ばす」ことを提案している。出生率 2.07 についても市だけで達成することは難しく、国が国策として新たな提案をいただけることも含め、努力して進めていく。女性に戻ってきてもらえる施策として、資料 5 には結婚をして戻って来てもらえるような支援事業を一番多く盛り込んでいる。戻ってきてでも結婚して市外に出て行かれては同じではないかという意見もある。できれば結婚して南砺に住んで頂き出産していただくことに焦点を合わせて政策を考えた。

(吉澤会長)

長寿化は、長期を展望すれば、人口減少の抑制効果の一つとして効いてくる。人口規模の小さい地域では、1 世帯の増加でも大きな効果がある。旧 8 町村でそれぞれ毎年 1 世帯ずつでも増やして行くような施策が重要である。数字合わせの政策ではなくて、地に足の着いた政策を地域の中で繰り広げることが、この積み上げになって行くと思う。今回の総合戦略の中では難しいが、それぞれの地域の中でどうやっていくか。次に具体化していくうえで、それぞれの地区でどう落とししていくかが重要になって行くのではないかと。そうすると市全体の施策へそれぞれの地区の施策が積み重なれば、この数字はつらいことではなくて、小さい目標であるのかもしれない。

(2) 人口ビジョン（将来目指すべき姿）について

(高山委員)

南砺市の立地特性を活かす施策が必要である。市内で働き住んでもらうのが理想であるが、金沢市、砺波市、小矢部市、飛騨市などと隣接しているので、勤務はある程度市外でも良く、先ずは市内に住んでもらうのが大事である。そう考えると、公共交通（バス）の利便性向上が重要で、南砺に住んでもらうための公共交通施策の充実が大切になる。今行われている金沢駅行きのバスの実証実験はとても大事な事である。期間は一年間だが、可能であれば長い期間の実施が望ましい。予算のかかることなので難しいが、半年や一年では人の行動はなかなか変わらないだろう、数年先を考えて就職先や住むところを考えて行動すると思う。

(吉澤会長)

バスの実証実験をどうやって継続しながらやっていくか。総合戦略に盛り込むことは難しいかも知れないが、別の政策の中に盛り込んでいただきたい。

(中道委員)

2019 年までの総合戦略の確実な実施というのがこの計画の肝になっていると思う。このなか

で、大学や専門学校新卒者の地元での就職者増とあるが、今南砺では結婚して子どもを産んでから教育までの施策は充実しているが、就職に当たっては求職情報とのマッチング、奨学金関係くらいしかなく、実際の就職活動に結びつけた支援も大事である。

(吉澤会長)

就職、雇用を増やしていくという様々な形で産業、雇用が生まれると良い。

市内総生産を上げることも、数値目標はそこまで大きなものではないので、地域の中での地産地消や、様々な形・レベルでの雇用を目標として考えた方がよいのではないかと。経済の範囲を増やすという事にひきずられてしまうが、南砺での様々な雇用が生まれるような、高齢者の力を発揮できる場所を確保することで、張り合いもできるし、地域の中の経済がまわっていく。高齢者の雇用、小さな雇用でも良く、地域でしごとが回るようにすることが重要である。

人口ビジョンについて色々ご意見をいただいたが、ここで、将来人口3万人を目標とする人口ビジョンの方向性について承認をいただけるか。

(満場一致で承認された。)

承認をいただきましたので、次の議題である総合戦略について意見をいただきたいと思います。

(3) 総合戦略について

(倉嶋委員)

目標値に「市内総生産額」を用いているが、経済動向等で大きく変動するので、その都度ズレの修正が必要になる。寧ろ安定している従業者数などの実数を用いた方が良い。経済より雇用の方が指標として良いと思う。

(吉澤会長)

稼げる地域創造というところも、「稼ぐ」より「雇用の場がある」にした方が良い。高齢者が生きがいとして働けることも重要であり、移住をしてきた人に対して「稼げる」といったら、都会と同じになってしまう。そういう意味では多様な仕事ができる、多様な雇用があるにした方が良いと思う。

(古瀬委員)

資料4の11頁の3ポツの記述内容が大事である。ネーミング(小見出し)を付けるなどして、解りやすくする表現を工夫してほしい。16頁の「ヒトと出会い、ヒトを呼び込む」の文章が抽象的で分り難い。身近な観点から具体的な記述があると解りやすい。「ヒト」「マチ」のカタカナ表現の理由はなにか？

(事務局)

カタカナにしたのは、ここを目立たせたい為。漢字で書くと流れてしまうので尖がった部分として、わざとカタカナ表記にしている。石破大臣は常々尖ったものをもってこいと言っているの、尖った表現の一つとして考えたものである。市民向けとしては、逆にわかりにくくなる場合もあるかもしれないので使い分けしたい。

(吉澤会長)

「進撃」には違和感がある。やさしい言葉、例えば「しあわせ創生」「くらし創生」などが良いように思う。

くらし創造、まち創造というのは、南砺の芸術・文化を活かして、交流を通して世界から人を呼び込むようにすることも重要と考えられる。世界をターゲットとしたときに、新しい交流を呼び込む利用を高める。単にイベントではなく、交流人口を増やす、貢献人口を増やすという事も含めて、ヒトとマチをカタカナにされたのかと思う。

(一二三委員)

資料4の15頁の「行政効率化の推進」は、弱みの克服ではない。地域資源として資産の有効活用を図る観点が大事である。

それぞれの表現ですが、例えばネウボラ、エコノミックガーデンなど、一般的にあまりなじみのないものについて、用語の解説を付けてほしい。

(吉澤会長)

行政の財政面等の弱みは、地域資源を有効に活用していくことで補い合うことが大事である。

そのためにも、是非、金融面を、例えば「南砺ファンド」を創設し、地域にお金やヒト、モノが埋もれるのではなく、外に出さずに地域内で金が回る仕組みづくりをすることが重要と考えられる。

(倉嶋委員)

全体的に意欲的な内容になっており、評価したい。是非ともこれが着実に実施されることをお願いしたい。PDCAを確実に実施し、3年後、5年後に目標値を上方修正するぐらいの取組みをお願いしたい。

(吉澤会長)

力強いご意見をいただきました。推進検証体制についても適宜に見直し、できるだけ上方修正できるような形で持っていけるようにしたい。

資料5の個別の施策も含めて意見をいただきたいと思います。

(事務局)

資料5は、これまでに寄せられた皆さんの意見、市民公募の意見、ワークショップの意見等を踏まえてとりまとめたものです。さらに盛り込むべきものがあればご意見をいただきたい。

(吉澤会長)

人をどう呼び込むかのために地域にあるものをどう生かすかという意味では、具体的施策について、市民に周知すれば、市民も巻き込んで施策も進めやすい。

(中川委員)

若い方の結婚から定住、子育てまでの一連の施策が大事である。南砺市の方が長く住みつづけしていくにはどうすればいいかを考えたところ、この5年間は重要な時期になる。18歳で大学に進学し市外に出られる方が、いかに戻ってくるかを考える場合に、中高校生に対し、南砺市の魅力をどれだけ発信できるか。その方たちが就職、結婚を機に戻ってくる時に何が必要なのか、就業機会もそうですし、結婚を考えると、地元へ戻って特定の人と結婚したいと思わせるための人材育成も重要であり、また3世代同居の施策なども必要である。

金融面では、地方創生としてふるさと創生ファンドのようなことを積極的に進めていきたいと思っている。外から稼いだお金を地域内で回すことが重要であり、「まちづくり創生ファンド」づくりに向けて、市内金融機関が参画・連携して取り組んでいきたい。

(吉澤会長)

金融的な面からいうと、補助金やお金を地域の中で回すやり方もいろいろあるが、ファンド資金を使って金融機関に参加してもらうことにより、行政だけの施策よりも利用されやすく、より厚みのある施策の展開が可能となるので、金融機関の方々には協力をお願いしたい。

(柴田委員)

南砺市住民の弱みとかいてある、遠慮がち、控えめ、遜るというなかで、こういう事業の案をだしても何のプラスにもならない。まず5年間で非常に大切ということなら、南砺市の人口が3万人になったらどうなるか、危機感と意識を高めないといけない。いろいろ市長が訴えています、聞いている人は人口5万人の中の1割にも満たないのではないかと。意識を高めるための声も必要だと思う。

15頁の行政効率化については、公共事業が大変多い中で、将来人口3万人を前提にしたときの、今の公共事業の建物がどれだけ無駄になるか、南砺市と同じベースで3万人の規模の都市の実例を出すなどして強く市民にアピールするようにした方がいい。

(事務局)

市では別途、公共施設再編計画の市民説明会などを実施している。それぞれの施設をどうするか、という話になるので、もっと厳しい意見がいただけると考えているが、参加者が非常に少ない。ホームページ、広報等で市が現況を説明しながら、共通認識していただけるように努力したい。

(吉澤会長)

地方を回っていると、本当に立派な公共施設があって心配になる。これからは作るだけでなく、どうやって生かすか、どう組み替えるかの知恵が必要で、間違いなく若者のアイデアが必要である。それぞれの地区の青年団、青年会議所等に積極的に入っていただく形で、一緒に考えていただくことが地域づくりの大きな柱となる。

(中野委員)

若い方の婚活も必要だが、お年寄りの婚活もしていけばいいのではないのでしょうか。健康寿命や平均寿命は、有配偶の方が長生きするという統計がでている。単身よりも一緒に暮らす人がいた方が人口増によさそうなので、今後の施策にいらてはどうか。

(吉澤会長)

人口ビジョンに関わりますが、Uターン・Iターンで高齢者の方が戻ってきて、その方々をどういう形で地域の方がまきこんでいけるか。昔の懐かしい関係と同時に、新しい出会いをどうつくっていくか、いろんな地域づくりの大きな課題だと思う。富山型デイサービスも、ある意味いろんな人との出会いを作っていくための1つの希望だと思う。地域再編の創生だと、廃校になった小学校などで寄合をつくって、そこで新しい出会いが生まれるということは、小さい村や町では生まれている。高齢者の方の自分の技を使う、同時に同居することでお互いを認め合う、張り合いを持つなどにつながるので、資料5にそれに近いことがあったと思うので、それに明記していただければいいかなと思います。

(渡邊委員)

資料5について、高齢者を支援する事業が大事。交通の便が非常に悪いと耳にします。一人暮らしで公共交通機関を利用したいのに、利便性が悪い。

地域おこし協力隊に関して、外国語通訳の方を採用したいが、まずは外国人の住みやすさに配

慮したハード面の環境整備も大事で、それによって採用につながっていくのでは。

No.54 五箇山茅場の大規模造成、コガヤの自給など何をするにも行政が予想して考えるのではなく、まず現場の声に耳を傾けてから実施することが大事である。

(吉澤会長)

総合戦略事業は、行政がやるのではなく、行政と地域の人の協働で進めることが大事であり、そのための事業推進体制づくりが重要である。具体的な政策となった場合、地域の関係者の取り組みをうまく吸い上げられる仕組み、一緒に事業をやっていく体制をどのように作っていくか、具体的な戦略を考えていくには大変重要ではないか。

(森永委員)

定住を推進していくにあたり、仕事先が本市にあることはベストであるが、必ずしも本市で住んで本市で働くことにこだわらなくて良い。まずは市内に住んでもらい、通える範囲の仕事に通ってもらい、ベターの選択で良い。

ハローワークではI、Jターン等に対しても、全国に向けて情報発信しているので、活用してほしい。

(吉澤会長)

南砺市は立地的に、富山市、高岡市、金沢市にも近いという地域特性を生かし、南砺に住む・暮らすことが基本であるまちづくりになる。それが地域のコミュニティを支えていく原動力になるのでないかと思う。ハローワークと連携して事業が進められれば良い。

(山中委員)

妊娠出産、子育てというところで、実際生まれてからの支援はあるが、出産というところで助産士、助産院が足りない現状であり、子育て支援の一環として、助産士、助産院の支援をお願いしたい。

(吉澤会長)

出生率の問題とも絡みますが、出産施設というところが南砺市の中にはない。助産婦さんは若い医者を育てるために必要である。南砺に助産婦さんが多くいれば出生率があがってくると思うので、増やすようにすることが大事である。

(齋藤委員)

助産師になるには、県内には助産士の資格を取る学校がないので県外の学校となるが、南砺市の奨学金は市内で5年間働いた場合は返済が免除であるが、市内に5年間働ける場所はあるのか。市内には実務経験を積む場が不足しているので、市外で実務経験を積んでから南砺に戻るのがいいが、その場合は奨学金の免除に相当しない。結婚してから戻ってきても免除の対象となるような政策がいいと思う。そのあたり検討してほしい。

また、民間の保育施設をしているが、保育料軽減事業があるが、指定されたところに通っていないと該当にならない。頑張っている人を応援するような施策とうたわれているが、それに対しても作ってほしい。

(吉澤会長)

人によって様々なライフスタイルがあるので、多様な方にどれたけきめ細かく寄り添える政策を織り込めるかが大事。

(中道委員)

南砺市民は高齢化が大変進んでおり、高齢者に関する事業が、資料5に掲げられているものだけでいいのかという気がする。総合戦略としてはこれでいいかと思いますが、対市民、対高齢者が住みよいまちづくりをもう少し充実すべきと思う。高齢者の買い物難民・弱者が問題となっている。若い者の定住も大事だが、現在の高齢者が住みよい市を目指してもいいのではないか。

(吉澤会長)

もちろん大前提として、高齢者の方々がきちんと暮らしていけることが非常に大事。市民に下ろしていくときに、丁寧に説明し、きめ細かな対応をしていくことが大事である。

(中川委員)

資料6の図6に、アンケート結果の住みづらい理由として、1番に「交通の便が悪い」、2番に「買い物環境等が不十分」、3番に「通勤通学が不十分」が上げられているが、買い物環境に関して、結局は交通の便が悪いことも含んでいるだろう。それに対応する施策があるのか。

(事務局)

今回の総合戦略は、市の総合計画ではなく、人口減少を克服し、まち・ひと・しごとの好循環をつくることを目的としており、それを実現するための施策と事業を挙げているものである。高齢者や交通の便については現れていないのが事実。総合計画のように全てのことに対応しているものではないことを理解いただきたい。

(中川委員)

交通網を充実させることで、より高齢化社会に対応していくと思う。住みやすい条件の一つとして、バスの充実について検討してほしい。

(吉澤会長)

南砺市は、山や森、川や里があり、非常に広範囲なところなので、そのなかでいかに公共交通機関を充実させていくかは、町が住みやすいところになるための一つの条件である。

公共交通の充実について総合戦略に取り上げられるか検討したい。

市の総合計画と、この総合戦略との位置づけについて、先ほどの事務局からの説明で明確になった。

皆さんからのご意見を踏まえて、次回4回目は、総合戦略の骨格をまとめ、市長への答申の案文を提示する。案文の作成については、会長一任のご了解をいただきたい。事務局と議論しながら作成する。併せて、今回は、今回でいうところの資料4（総合戦略素案）を、残り時間は少ないが充実したものにしていきたい。

先日、東京での同郷会に参加させていただいた。南砺の人は外に出た人を本当に大事にする。南砺の人たちは南砺に誇りを持っている。人材も豊富であるので、それを磨き上げていくことが大事。

環境省の森里川海プロジェクトがあるが、これは分断されてしまった、森、里、川、海のつながりを、どのようにもう一回取り戻すか、人と人、世界をどうつなげて行くかが大事。その時市長がおっしゃったのは、南砺は10年前に4町4村が合併し、森と里そして川が行政として1つにつながった。下流に行けば海ともつながる。合併によって大変豊かなつながりを確保で

きた、つながりを大事にして、豊かさをもう一度磨き上げることが大事であることを痛感した。そういう意味で、是非すばらしい総合戦略を作り上げてほしい。

5. 市長あいさつ

いろいろな提言、お考えをいただき、しっかりと盛り込んで取り組んでまいります。ありがとうございました。

総合戦略の、まだできていない「まち・ひと・しごと」の部分の資料を持って、中央官庁を回った。かなり練りこんだと思っていたが、国の方たちが見た時、「別に南砺でなくても同じような文言が並んでいる」と言われた。そのあたり、南砺の強みがちゃんと表れるようにしなくてはならないと感じた。

先日、吉江の福寿大学で、高齢者に対して、地方創生についての現状と、2060年をターゲットに目指す町について説明した。来ておられた方々は、昔に比べて、今は本当に素晴らしく楽になったのになぜ人口が減っているのか、という反応が多かった。

同日にあった、若手経営者の会では、皆さんの知恵を絞って新しいビジネスをつくってください、ここで仕事を作りましょうといいました。それには若い人のエネルギーが必要ということをお話した。企業と行政がタイアップして、1人でも雇用を生む、南砺に住んで暮らせるつながりを作りましょうという話をした。これをどんどん広げていきたいと思っている。

こういった新しい計画を実行すること。それと、人口が減った時点での財政と公共施設の関係も大事。行政として管理できなくなる公共施設を、いかに民間の方に使っていただくか、選択肢を広げていながら総合戦略と共に公共施設の計画も進めていくべきだと改めて感じている。スピード感が必要な計画ですので、行政としてスピードをあげていかなければならない。いろんな規制やルールの変更にも対応できるような形づくりを考えていきたい。